

隨泉寺寺報

平成23年(2011年)2月号 第486号

TEL 082-892-0217 <http://www.zuisenji.com/>

浄土真宗本願寺派 高峯山隨泉寺
仏婦講座

講師 浄泉寺住職 加藤一英師

講題 『如来二種の回向文に聞く』

■ 恵信尼様 ～親鸞聖人の妻～

今年はいよいよ親鸞聖人の750回大遠忌法要が始まります。

(父) 親鸞聖人と(母) 恵信尼様の末娘 覚信尼様から、1262年の暮れ12月20日すぎ、越後の地に住む81歳の母親の恵信尼様のもとへ、一の手紙が届きました。それは、「父(親鸞聖人)が11月の28日、京で90歳で息を引きとった事」を報じたものでした。それ以後度々、親鸞聖人について、妻の恵信尼様に「父上様(親鸞)がはじめて悟りをひらかれた様子を、お母さんは、ご存知ですか?。ご存知でしたら、お知らせ下さい」覚信尼は、生前の父の影を、年老いた母に問いつづけました。

この返事が『恵信尼文書』です。これによって親鸞聖人の比叡山時代の実像を知る事のできる唯一の資料として、貴重なものです。このお手紙はカナ文字で当時は女性が字を知っているのは珍しい時代でしたから、恵信尼様も相当教養があったものと推察されます。



2月の法座予定

- 2月13日……………掃除 井原
- 2月14日昼席午後1時より……………仏婦講座
- 2月14日夜席午後7時より……………出張法座 井原集会所
- 2月15日朝席午前10時より……………仏婦会員物故者追悼法要 おとき
- 2月15日昼席午後1時より……………瀬野川仏婦連合会50周年記念法座
- 2月23日午後1時より……………安芸北組750回大遠忌お待ち受け法要
- 3月 2日午後1時より……………作品づくり
- 3月 2日午後6時より……………門信徒会本部役員会

☆ 瀬野川仏教婦人連合会50周年記念法座

昭和31年9月30日に瀬野・中野・畑賀の三村が合併して瀬野川町になりました。その時にあって上瀬野龍善寺・下瀬野浄行寺・上中野隨泉寺・下中野専念寺・畑賀品秀寺の五ヶ寺住職の合意により瀬野川仏教婦人連合会が発足しました。昭和33年4月17日のことです。仏教文化講演会を各寺持ち回りで年2回開催し、お念仏の心を伝えていこうとするあゆみです。昭和35年4月5ヶ寺の仏教婦人会員の切なる声により瀬野川町仏教婦人連合会が設立され、昭和35年9月11日専念寺において結成記念式典が挙行されました。

以来、瀬野川町五力寺の仏教婦人会の幹部役員は勿論、役員・会員の並々ならぬご努力により、今日までの50年にわたる《あゆみ》があり、その50周年の記念法座を開催します。



瀬野川町が発足して間もない頃、「五力寺のご門徒は、みんな親鸞聖人のみ教えを頂く真宗門徒であり、心の和合が大切に、ただ形のうえだけでの三村合併ではないところに、合併の意味がある」ということでありました。

《家庭の園に念仏の花を咲かせましょう》のスローガンのもと《社会に念仏を》の実践活動を確認し、《お念仏の町 瀬野川》を目指して娘を結婚させるなら瀬野川へ、娘を妻にするなら瀬野川からといわれるようにありたいとの願いから、模擬結婚式を催したり、全国から有名な御講師をお招きしたりして、《お念仏の町瀬野川》の建設に心をそそぎました。



昭和59年7月30日に住居表示が改正され、瀬野川町の町名がなくなりましたので、昭和59年4月1日より会則変更して瀬野川仏教婦人連合会と改名しました。

10年前から諸事情により専念寺仏婦が休まれるということで、仏婦大会はしばらく休止ということになりましたが、1、掲示伝道 2、施設への大乘誌配布 3、瀬野川学園の奉仕活動 4、瀬野川仏婦連合会会議 は継続中で、今年度発会50年の節目を迎えるということで、記念行事を企画しました。

それは 1、50周年記念法座の各寺持ちまわり開催 2、記念誌発行(掲示伝道の集約) 3、記念大会の開催

以上の企画を検討中です。今回はその第1回目の記念法座です。誘い合わせてお参りください。

☆御礼

永代経懇志 金 拾萬円 真殿 和治殿 故 真殿 永子様 特 永代経志として

☆御礼

特 懇志 金 貳拾萬円 真殿 和治殿

2月

ひたすら私の目覚めをまち ひたすら生かし続けてくださる 阿弥陀さま

『親鸞聖人御消息』（註釈版聖典 748 頁）

親鸞聖人の主著『教行信証』には「真仏弟子釈」があります。今月の言葉「信心の人を真の仏弟子だと述べられるのですが、詳しく丁寧に真の仏弟子を示されます。

そこでは最初に、阿弥陀仏の光明に遇うと心が柔らかくなるとされ、続いて、教えを聞いて忘れず、教えを敬い、教えをよろこぶ人は釈尊の親友であるといわれ、人中の分陀利華、すなわち白蓮華であるといわれます。

さらには、人中の好人、妙好人、上上人、希有人、最勝人といわれ、釈尊滅後、五十六億七千万年してこの世界に現れるという弥勒菩薩と等しいといわれます。

このように信心の人を褒めたたえた後に、自分自身を振り返り、愛欲の広海に沈没し、名利の太山に迷惑して、定聚の数に入ることを喜ばず、真証の証に近づくことを快しまざることを、恥づべし傷むべしと。（『註釈版聖典』二六六頁）と、真の仏弟子とは、ほど遠い自分のすがたを悲嘆されます。

信心をいただくと、次の生で必ず仏のさとりを開くという正定聚の地に就くといわれています。親鸞聖人は、当然、正定聚の地に就き、仏のさとりに近づいている方です。

聖人は仏のさとりを得ようと比叡山で修行された方ですから、正定衆の地に就くことほどのよろこびは、ないはずで、ところが、よろこぶべきことをよろこばないといわれます。そればかりか、この文の最初に、愛欲の世界に沈没し、名誉や利益の世界に迷い惑っていると告白されます。

私はこの文章を見て、なるほど親鸞聖人はご自身がおっしゃるように、真の仏弟子とはほど遠い方だったとは思えませんでした。むしろ真の仏弟子のすがたを見せていただいているように感じます。

もし、「私が真の仏弟子である」「私は将来妙好人と呼ばれるかもしれない」といった人がいたら、思わず「本当かな」といってしまいそうです。

本来よろこぶべきことをよろこぶことができず、本来嘆くべきことを嘆くことが



できないという悲嘆とその一方で、言葉にはなっていませんが、このような私にまで救いの光明が至りとどいているというよろこびの世界に、私は、真の仏弟子のすがたが感じ取れました。

蛇足ですが、愛欲や名利の世界にどっぷりと浸かっていることは当然のことだといっておられるのではありません。

☆お浄土で、大好きな目白の鳴き声を楽しんでいることでしょう。

夫 季良（すえよし）が、昨年九月三十日、八十三歳でお浄土へ旅立ちました。四年前頃から、畑仕事に出かけた私を捜し歩くようになり、認知症の症状が出始めました。

昨冬からは、徘徊・幻視・記憶力減退・難聴による意思疎 困難の為、自宅での日常生活も難しくなりました。

何度も、挫けそうになりながら、皆様のお陰で、最期まで自宅での介護が出来ました。

最期の 四日間は、にこにこ笑いながら、お世話になった方々や、長姉の手を握って、れを伝える事が出来ました。

最期の 日々は、一步一步お浄土へと近づいていくように、一刻一刻と弱っていきながらも、嬉しそうに にこにこ、していました。

会話が成り立たなくなった夫に欠かさず会いに来てくださった方々。いつでも、私の力になるからと、手を差し伸べ続けてくださった方々。悔いを残さずに、夫を見送る事が出来たのは、周りの方々のお陰様です。

見送ってしまえば、あれほど辛かった認知症の症状もお陰様でした。夫は、衰えて思うように歩けなくなった足を嘆くことなく、聞こえなくなった耳を嘆くことなく、お浄土へ行ってしまっている兄弟達に囲まれている心持で、心安らかに、旅立てました。

にこにこ旅立った夫は、耳も聞こえるようになり、お浄土では、大好きな目白の鳴き声を楽しめる事と思います。 本当にお陰様でした。

合掌

中富 恵美子

法名 釋浄季 俗名 中富 季良 行年 83 歳

平成二十二年九月三十日 往生

